

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>・授業に前向きに取り組もうという気持ちをもった生徒が多い。その反面、家庭での復習ができている生徒は少ない。そのため、漢字などの基礎的な知識の定着に課題がある。また、書くことが極端に苦手な生徒が各学級に数名おり、また全体的な学力差も顕著なため、手立てが必要である。</p>	<p>・家庭学習を促すためにも、小テストの頻度を増やしていく。また、成績向上の見られない生徒には別の課題を設けるなど個別に対応する。学力差に関しては、学び合いの時間を増やすことで改善していく。一斉指導の時間が減る分、個別対応の必要な生徒に対応する時間を増やしていく。</p>	
社会	<p>・前向きに学習に取り組んでいる生徒が多い。各資料を用いた調べ学習では、生徒同士の学び合い活動も協力して行っている。しかし、自分の考えを文章で表現することについては、苦手意識をもつ生徒が多く、表現力の定着に課題がある。知識の定着についても習熟度に大きな差が生じている。</p>	<p>・知識のさらなる定着を目指して、小テストや単元テストを継続的にやっていく。 ・表現力の向上を目指す改善策として、図やグラフなどを用いるレポートの作成課題を提示していく。ICT機器を用いることにより、文章での提出機会をさらに増やすこと・生徒同士の考えを共有することにより、さらなる思考力・表現力の向上を目指していく。</p>	
数学	<p>・算数に苦手意識をもった生徒が多く、意欲に欠け、取組が進まない。主に四則計算の定着が不十分であることが課題である。正負の数や文字式の計算方法の定着も進んでいない。また、粘り強く思考して取り組む力、数学的思考を用いて表現する力にも課題がある。</p>	<p>・導入や発問で易しい例題を出すなど工夫を行い、生徒の関心・意欲を高める授業を行う。授業の最初に行っている計算練習において確認をより丁寧に行い、基礎的な計算方法の定着を図る。また、粘り強く声かけを行うとともに生徒同士の学び合いを促し、問題解決を通して生徒自身に達成感をもたせる授業を行う。</p>	
理科	<p>・授業に前向きに取り組もうという気持ちをもった生徒が多く、発言も積極的に行う生徒が多い。その反面、科学的な現象について深くじっくりと考え、その考えを文章などに論理的に表現する力について課題がある。また考えたことを的確に表現できない生徒も多く、課題だと考える。</p>	<p>・時間をかけて、継続的に改善に取り組んでいく必要がある課題だと考えている。授業で出した課題について、グループで情報交換をし、大まかな考えを形成し、その後インターネットなどを使いさらに細かな考え方をまとめてから、表現をするようにすることで、『思考・判断・表現』の力を伸ばすことを期待できる。また、そのまとめをグループで発表しあい、共有することでも表現する力を伸ばすことにつながれると考える。</p>	
音楽	<p>表現・鑑賞・創作において、それぞれが積極的に活動できているが、経験の不足から、自己評価が低く、自信を持って表現活動ができない生徒が多い。</p>	<p>①適切な評価 歌唱や器楽表現の場面での評価と、自己評価を見比べて、開きのある項目についての認知のずれを補正する。 ②言語活動の充実 適切な言葉で伝えあうことによって、自己肯定感を高め、自信を持って表現することができるような活動を目指す。そのためにも、鑑賞活動等での言語活動を充実させていく。</p>	

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での規範意識も高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。特に立体工作について関心が高い。作品制作のために自由な発想を求められた際に学習課題に対応できようようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に発想を行う時間を授業内で確保すると同時に、授業外の時間も活用できるように一人一台端末を活用した授業を展開する。基礎基本的な知識や技能を確実に身に付けられるように、演習の時間を十分に確保する。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多いが、運動に対して苦手意識がある生徒も少なくない。体力や技能の個人差が大きいことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識は「できない」という気持ちから生まれるので、スモールステップで「できた」という経験を積み重ねることが出来る授業計画が必須である。また個人の体力や技能の段階に合わせたプログラムを計画し、実践していくことが求められる。 	
技術 家庭	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に取り組むことができる。規範意識も高く、設計・制作に対しても意欲が高い。ものづくりの経験が少ないため、技能が十分に身につけていないことが課題である。 <p>(家庭)前向きに学習に取り組んでいる生徒が多い。発問に対する発言や話し合いへの参加も積極的である。その一方で、自分で献立を立てたり、自分の考えを文章で表現したりすることに課題がある。</p>	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得のため、導入教材や加工の練習を多く取り入れることで、個々の向上を目指す。さらに、お互いの技能について、話し合い活動を取り入れ、知識・技能の定着を図る。 <p>(家庭)少し難しい作業に関しては可視化をするなど丁寧に説明するようにする。自分の考えを表現する活動を行う際は、取り組みやすいよう、例文を提示するようにする。</p>	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で2年間教科としての英語を学習してきているので、音声に抵抗は少なく、前向きに取り組む生徒が多い。一方、アルファベットを正確に書くなど、「書く」技能が低いのが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴを毎回行い、ビンゴシートに単語を書くことで正確に書く機会を増やす。 ・単語テストを定期的に行い、自宅でも英語を正確に書く習慣を付けさせる。 ・音声に抵抗が少ないという点をさらに伸ばすために、英語でのスピーチやALTとのスピーキングテストの回数を増やしていく。 	

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを積極的に発言、発表して表現する力に課題がある。 ・自分の意見や考えを文章で論理的に表現する力に課題がある。 ・漢字や文法、古文などの基礎の理解力を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループ活動を活用し、主体的に意見や考えを出しやすい雰囲気を作る。 ・「書く」学習について生徒の表現を促すワークシートを工夫する。特に、苦手な生徒には、何についてどのように書くのか、書く手立てを示し、段階的に指導する。 ・週1回の漢字テストを継続し、反復練習を行うことで定着を図る。 ・古典の学習を行う際は、単元の初めと最後に語句や歴史的仮名遣いに関する確認テストを実施する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ① 用語の基礎的内容を身につける事が課題である。 ② 対話的な授業で、活動に加わる事が課題である。 ③ 社会科的事象に対して主体性をもって授業に臨むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①について。eライブラリと朝学習を活用する事で基礎的内容の定着を図る。 ②について。パネルディスカッションやブレインストーミング及びコンセプトマップの作成等の様々な授業展開をし対話的活動に加わる動議づけを図る。 ③に関連し班活動では jamboard を利用し主体的に教え合い、個別発表する機会も設ける事で主体性を培う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに学習に取り組んでいる生徒が多い。各分野の基礎的内容の理解ができていないのが課題である。今年度は習熟度別授業ではないため、生徒の学力に差がある。教え合いに参加できない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業において導入や発問の工夫を行い、生徒の関心・意欲を高める取組を行う。毎授業の最初に5分程度の計算練習を行い、計算力のさらなる向上を目指す。教え合いや学び合いの時間を多く取り、声掛けによって促し十分な理解がさせられるよう見通しを示しながら授業、指導を進める。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・物理法則をはじめ、計算を用いた学習において苦手意識をもつ生徒が多く、また日常生活での視点をもって取り組むことができないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算については定着を図るためにその単元において、毎授業の5分程度の計算問題を行う。また、計算を重視するよりも、その現象の理解を深めるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的なレベルの高い生徒が多いが、レベルの差が大きく、聴き取る力や表現する力に開きがあるのが現状である。小グループでお互いの持てる力を活かして、学び合いができるとうい。 また、自分の求める表現を言葉で説明するだけの知識と語彙が少ないのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相互評価の導入 アンサンブル活動を通じて、互いの演奏を聞き合い演奏を評価する活動を行う。他からの評価を自分の評価と比較し、表現の幅を広げる。 ②言語活動の充実 作曲者の生きた時代の背景などからも楽曲について学び、適切な言葉を用いて説明する力を育成する。 	

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によっては意欲の低さが目立つ。授業内容に十分な関心をもたせることができず、持ち物をもってこないなど意欲の面で課題がみられる。手順を理解できず完成できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の授業だけでなく、双方向の鑑賞の授業や多様な表現活動、毎回あての提示を行い、一人一人が意欲や関心を持ちやすい授業を心掛ける。毎回、持ち物を固定し、場合によっては預かることで学習活動の時間を確保する。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との協働の中で教え合い、学び合いの中で、運動することを苦手と感じている生徒が多い。 ・各単元において基礎的・基本的になる運動技能が身に付いていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を通して、コミュニケーション能力の育成や、仲間と協働しながら問題解決能力を身に付けさせる。また、対話的な学びの中で、自らの思考を広げ深めていくことを実践していく。 ・毎時間、その単元における基礎的・基本的な運動を取り入れ、運動技能の上達を自分自身が実感し、その技能などをゲームに繋げられるようにしていくことにより、運動していくことの楽しさを実感させる。 	
技術家庭	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習には意欲を持って主体的に取り組むことができる。しかし、講義形式の授業では、集中できない場面も見受けられる。規範意識も十分に身につけていないため、安全指導が浸透していない。 <p>(家庭)調べ学習に積極的に取り組むことができ、主体的に学習に取り組んでいる。その一方で、こちらが指示した活動に積極的に取り組むということに課題がある。</p>	<p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の授業をしながら、知識や技能、安全指導をできるだけ同時に指導する。実物をできるだけ見せながら指導することで、生徒の集中力を高め、知識や技能、規範意識を高める。 <p>(家庭)活動を指示する際は、可視化をするなど丁寧に説明するようにする。実際の生活場면을挙げるなど、興味関心を引き出す工夫をする。</p>	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の拡充と正確に書く力が課題である。 ・推測しながらまとまりある英語を正確に読みとる力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙リストを活用した語彙学習を充実する。 ・スペリングコンテストを実施し、学習する気風を高め、基本語彙を確実に定着させる指導を行う。 ・分量のある英文を読解する機会を増やす。 	

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着および興味の喚起については、これまでの取組の成果が見られる反面、発展的な課題に取り組む力が不十分である。 ・全体的に、論理的思考や文章の組み立てが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元で、ワークシート等を用いて知識を活用する課題を取り入れる。 ・討論や小論文などの論理的な思考を促す課題を設定する。また、論理的な文章を書き、推敲する課題を継続的に行う。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が落ち着いて授業に臨み、課題に対して真面目な姿勢で取り組むことができる。タブレットを活用した調べ学習にも興味をもって取り組んでいる。一部の生徒で基礎的な知識の定着が十分でない点、また思考力の向上を図る点が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着を図るためのワークシートに取り組むとともに、グループ活動とレクチャー形式を組み合わせ、考えさせる場面を増やすことで思考力を伸ばす授業を進めていく。また、タブレットで詳しく調べ班員に教えあう活動や、映像やICTを活用することにより改善を図っていく。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに学習に取り組んでいる生徒が多いが、苦手な分野に消極的である。 ・教え合い学習やグループワークもしやすい環境だが説明文の理解が不十分な生徒が多いのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教え合い学習やグループワークを取り入れながら、説明文への苦手意識を取り除く。 ・問題を解く時間を豊富に取り入れ、多種多様な問題を人と協力してでも解く習慣をつける。時に発表形式の授業をして意欲意識を高める。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で授業への取り組みはよく取り組んでいる。学習内容の定着という面では学習内容を自分の知識として身に付けられている生徒は全体の半分程度であり課題である。理科的な物の見方や考え方に関してもどう伸長していけるかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を含めた学習時間の確保と学習内容の定着を図っていく。理科的な物の見方や考え方は自分の考えをもつことが重要なので自分の考えをまとめる時間を確保する。また、他人との意見交換から知り得ることが多くあるので話し合いの時間も大切にしていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による自粛期間の影響を大きく受けている学年である。歌唱や器楽の鑑賞活動を行う機会と経験が不足しているため、基礎的な表現の技能の定着がまちまちである。 また、実際の表現の技能と自己評価に開きがある生徒が半数近くいるのも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学び合い活動の充実 多くの鑑賞教材や同年代の子どもたちの表現を鑑賞することで、表現に対する関心を高め、主体的な活動を促す。また、グループ活動の中で、互いに助け合いながら課題解決の方法を模索する。 ②評価活動の充実 実技試験を録音し、自分の演奏を聴くことによって誤差を少なくし、自己の課題と向き合い、よりよい表現を目指す。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んでいる。知識や技能について関心が高い生徒が多い一方で、自分の発想や表現力に自信がない生徒もいる。授業を通して自由な発想を学習に結び付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒作品の鑑賞会などを通して、お互いを認め合う時間を作り、他者理解と自己理解を促す。デジタルのポートフォリオを整備し、活動を振り返りながら学びを修正しながら能力を伸ばしていけるようにする。 	

<p>保健 体育</p>	<p>・全体的に意欲的に取り組む生徒が多い。また、自身や他者の安全に配慮して取り組んでいる。しかし、体力や技能の個人差が大きいことが課題としてあげられる。</p>	<p>・苦手意識は「できない」という気持ちから生まれるので、スモールステップで「できた」という経験を積み重ねることができる授業を計画する。また個人の体力や技能の段階に合わせたプログラムを計画し、実践していく。</p>	
<p>技術 家庭</p>	<p>(技術) ・授業には前向きに取り組むことができ、実習には粘り強く集中して取り組むことができる。しかし、自分の判断や表現の技法に自信が持てず、主体的に取り組めないことが課題である。</p> <p>(家庭)落ち着いて学習に取り組むことができている生徒が多い。その一方で、製作の実習中におしゃべりが多く、あまり作業が進まないという課題がある。</p>	<p>(技術) ・机間指導の際に、助言や褒める声かけを行うことで、自信を持たせる。生徒とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築くことで、意欲や興味・関心を喚起させて主体性を伸ばす。</p> <p>(家庭)製作の実習ではどの工程をいつまでに終わらせなくてはならないのか明確に提示する。毎回の授業の冒頭でもアナウンスするようにする。</p>	
<p>外国 語</p>	<p>・新出文法の用法や構造は概ね理解できているが、長文の中での理解や、英作文の段階になると一部の生徒にとっては理解が不十分である。</p> <p>・英文を読み上げる、質問を聞いて応答する、意図を伝えるといった力は付いてきたが、絵を見てストーリーを英語で話す、自分の意見を述べる事が苦手な生徒が多いところが課題である。</p>	<p>・教科書の文章を読むときに指示語が何を指すのかを意識させ、5W1Hを考えさせることで、長文読解につなげていく。英作文に関しては、さらに実施する頻度を増やし、苦手意識のある生徒に自信をつけさせていく。</p> <p>・ESAT-Jに関する問題も活用し、発音やイントネーションはもちろん、表現の幅を広げるような工夫を行う。</p>	